

## 歴史文化クラブ5月研修会

「丹後王国と日本海文化」 坂東久平

5月23・24日に、参加者21名で、一泊二日の歴史文化クラブ・研修旅行を開催した。

今回は、企画準備に委員会を設け、コアメンバーの川井代表（七姫伝説）、古川事務局長（丹後王国全般）、中井さん（神社と鉄の道）、坂東（古墳）と新会長の鈴木さん（旅程や旅館、食事の場所、バスの手配）、地元丹後出身の塩本さん（鉄の道、ルートの下見）にも特別参加をしていただいた。3カ月間の検討で、26ページの研修会資料と付録4ページを作成した。

（2日間の行程）

初日：西大寺駅⇒与謝天橋立IC⇒大宮売神社⇒間人の「味工房ひさみ」にて昼食⇒丹後西海岸・立岩・屏風岩⇒丹後古代の里資料館・竹野神社、神明山古墳⇒嶋児神社⇒網野銚子山古墳⇒遠所遺跡⇒ホテル・丹後王国（懇親会・宿泊）

2日目：ホテル⇒久美浜湾・函石浜遺跡⇒如意寺⇒「豪商稲葉本家」にて昼食⇒乙女神社⇒丹後郷土資料館⇒元伊勢籠神社⇒舟屋の里 伊根⇒与謝天橋立IC経由⇒西大寺駅

西大寺駅を定刻に出発し、最初に川井代表の挨拶、次いで古川さんより「丹後王国と日本海文化」総括説明、更に川井さんの七姫伝説と進み、最初の訪問地・大宮売神社に到着した。

丹後は朝鮮半島や中国との文物交流の表玄関であり、縄文時代から丸木舟で日本海を渡り、文物がもたらされていた。弥生時代には丹後半島に竹野川流域を拠点とする有力な勢力があり、当時最も重要だった鉄の輸入路を支配し、交易により力を蓄えていた。

丹後の里資料館の解説によると、丹後王国の時代は、2世紀後半から5世紀前半である。

王国の力は、日本海3大古墳の網野銚子山古墳、神明山古墳、蛭子山古墳の大きさに現れており、古墳の麓には、潟湖を中心に交易の窓口であった函石浜遺跡等が広がっていた。

朝鮮半島南部から持ち込まれた鉄の素材は、遠所遺跡などの製鉄所で加工され、ヤマトに運ばれたと

考えられる。そのルートの一つとして、竹野川から野田川へ（山越え）、更に宮津湾から由良川を遡り、加古川へ（山越え）そして瀬戸内海からヤマトへと、2度の山越えをしたものと推定されます。

大宮売神社は竹野川から野田川へ山越えをした地点にあり、重要な拠点であったと思われる。



丹後王国とヤマト王権の間には、密接な関係があり、垂仁天皇皇后（日葉酢媛）は丹波道主王の娘で、その他多くの関係で結ばれていました。

丹後には、元伊勢籠（この）神社があり、天照大神が伊勢に遷る前の4年間は、ここに鎮座されていたとされています。

丹後には、ヤマト王権から見た歴史のほかに、大陸交流の十字路として育まれた固有の地域史や豊かな伝承があります。七姫伝説など、小野小町を初め多くの有名な美女達の誕生地であり、浦島太郎伝説もここに 있습니다。（川井さんから外見の美女でなく、心の美人になって欲しいと話があった。）

湯船坂2号墳出土の「金銅装双龍環頭大刀（国宝）」：丹後古代の里資料館では、出土品のレプリカが、丹後郷土資料館では、復元された黄金色のレプリカを見ることができた。

美味しかったのは、「ひさみ」の海鮮丼、「稲葉本家」のバラ寿司であった。

皆様の熱意とご尽力のお陰で、丹後に残る豊かな歴史遺産と素晴らしい自然に触れることができ、充実した研修旅行となりました。今回の研修会に参加されなかった方にも、機会を見て是非一度丹後を訪れられることをお勧めします。

ホテル・丹後王国では、LEDイルミネーションが綺麗であった。宴会後の片付けを池田さんと青木さんがシッカリとやっていただき、ホテルからお礼がありました。鈴木さんには、並の添乗員でもまねの出来ない気配りを頂き、ありがとうございました。